















7 今後に向けて

今年度は、講師から、「特別支援学校におけるカリキュラム・マネジメントの実現のために、今、何を行っていく必要があるのか」という研究の具体的な方向性について指導助言を受けた。また、障害種の異なる特別支援学校から経験豊富な教員を調査研究協力員として招聘し、4回の調査研究協力員会議を実施する中で、特別支援学校の現状について情報を共有した。

カリキュラム・マネジメントの実現のために、本研究では、個別の指導計画を作成し、より活用できる仕組みについて研究を進めてきた。個別の指導計画を作成するためには、児童生徒の前年度までの学びの履歴を把握した上で、各教科等並びに自立活動で実態を捉え、目標設定を行っていく必要がある。そのことから、各教科等や自立活動で目標設定できるシートについて検討及び開発を行った。調査研究協力員と共に、事例対象児を挙げて各シートに記入作業を行うことで、シートの見直しを行うことができた。

次年度は、図4に示したように、研究協力員所属校での授業実践を行う。実際に今年度検討及び開発した2種類の目標設定シート（仮称）を用いて、障害に起因する学習上や生活上の困難さの状態を知り、具体的な指導や支援がで

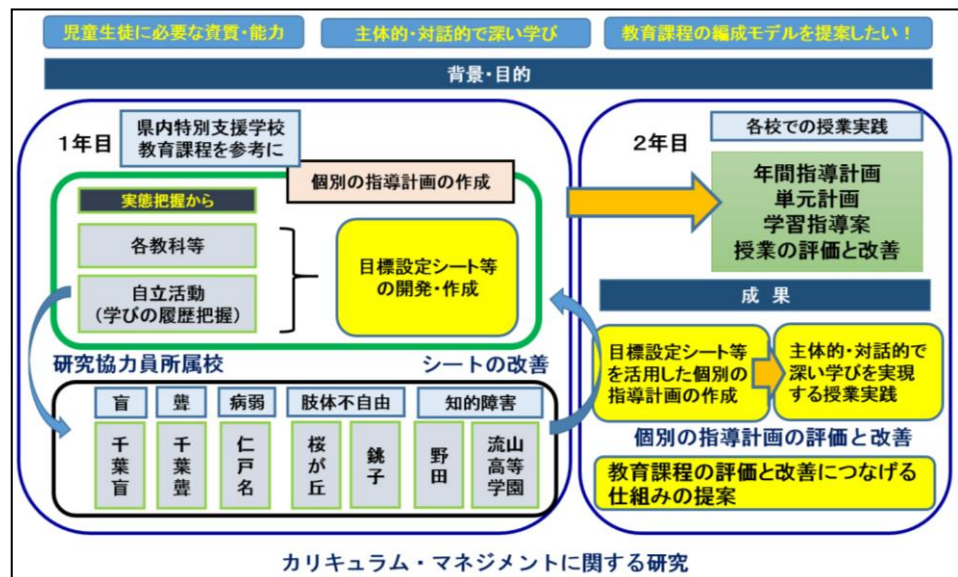


図4 本研究の全体イメージ図

きるような目標が設定できると考える。児童生徒一人一人の目標が具体的にすることで、それぞれの授業（単元）のねらいについても明確になる。その授業で何を学ぶか、何ができるようになるかが明確に示されるような学習指導案の在り方についても検討していきたい。

さらに、授業実践を基に、教育課程を評価・改善し、次年度の教育課程の見直しにつなげる仕組みについても併せて検討していきたいと考える。